

Ⅲ 新人看護職員研修到達目標

1 到達目標の基本事項

(1) 新人看護職員には、臨床現場で複数の患者を受け持ちながら、優先度を考慮し看護を行うことが求められることから、必要な知識、技術、態度を以下の構成要素ごとに提示した。

- 1) 看護職員として必要な基本姿勢と態度 (表1)
- 2) 看護実践における技術的側面
看護技術 (表2-1)、助産技術 (表2-2)
- 3) 看護実践における管理的側面 (表3)

しかしながら、例えば、看護技術の実施に際しては、患者への十分な説明等「看護職員として必要な基本姿勢と態度」に含まれる内容も同時に必要とされるように、これらの到達目標はそれぞれ独立したものではなく、患者への看護ケアを通して臨床実践の場で統合されるべきものであるとの認識が必要である。
(図1)

(2) 特に、看護技術の到達目標については、単に手順に従って実施するのではなく、以下の「看護技術の実施時の確認項目」を全て確認した上で実施する必要がある。

- 1) 事故防止に向けた、チーム医療に必要なコミュニケーション
- 2) 安全確保対策の適用の判断と実施
- 3) 適切な感染管理に基づいた感染防止
- 4) 看護技術の意義と方法に関する患者への事前説明と同意の確保及び患者の選択権の尊重
- 5) 家族への配慮や助言
- 6) 科学的根拠(知識)と観察に基づいた看護技術の必要性の判断
- 7) 看護技術の正確な方法の熟知と実施によるリスクの予測
- 8) 患者の特性や状況に応じた看護技術の選択と応用
- 9) 患者にとって安楽な方法での看護技術の実施
- 10) 看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価

(3) 看護実践における管理的側面については、それぞれの科学的・法的根拠を理解し、チーム医療における自らの役割を認識した上で実施する必要がある。

(4) 患者への看護技術の実施においては、高度なあるいは複雑な看護を必要とする場合は除き、比較的狀態の安定した患者の看護を想定している。

しかし、日常生活援助に関する目標の中で、高度なあるいは複雑な看護技術であっても、新人看護職員が修得を目指す必要がある項目については、その代表的な患者の状況等を例として付記した。

なお、重症の患者等への特定の看護技術の実施を到達目標とすることが必要な施設、部署においては、想定される患者の状況等を適宜調整することとする。



表1 看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標

領 域	到 達 目 標
看護職員としての自覚と責任ある行動	①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する。 ②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する。 ③職業人としての自覚を持ち倫理を遵守する。
患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。 ②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する。 ③患者・家族が納得できる説明を行い、同意を得る。 ④家族のニーズを把握し家族ができることを判断し説明する。 ⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する。 ⑥看護がサービスであることを認識し、患者・家族に接する。
組織における役割・心構えの理解と適切な行動	①病院及び看護部の理念を理解し行動する。 ②病院及び看護部の組織と機能について理解する。 ③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する。 ④同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる。
生涯にわたる主体的な自己学習の継続	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける。 ②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する。 ③学習の成果を自らの看護実践に活用する。

表2-1 看護技術についての到達目標

日常生活援助に関する目標の中で、高度なあるいは複雑な看護技術であっても、新人看護職員が修得を目指す必要がある項目については、その代表的な患者の状況等を例として付した。

領 域	到 達 目 標
環境調整技術	①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整 例：臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整 ②ベッドメイキング 例：臥床患者のベッドメイキング
食事援助技術	①食事介助 例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助 ②経管栄養法
排泄援助技術	①自然排尿・排便援助（尿器介助、便器介助を含む） ②浣腸 ③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理 ④摘便 ⑤導尿
活動・休息援助技術	①歩行介助・移動の介助・移送 ②体位変換 例：①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施 ③関節可動域訓練・廃用性症候群予防 ④入眠、睡眠の援助 ⑤体動、移動に注意が必要な患者 例：不穩、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助
清潔・衣生活援助技術	①清拭 ②洗髪 ③口腔ケア ④入浴介助 ⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換 ⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容 例：①から⑥について、全介助を要する患者、ドレーン挿入、点滴を行っている患者等への実施
呼吸・循環を整える技術	①酸素吸入療法 ②吸引（気管内、口腔内、鼻腔内） ③ネブライザーの実施 ④体温調整 ⑤体位ドレナージ ⑥人工呼吸器の管理
創傷管理技術	①創傷処置 ②褥瘡の予防ケア ③包帯法
与薬の技術	①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬 ②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射 ③静脈内注射、点滴静脈内注射 ④中心静脈内注射の準備・介助・管理 ⑤輸液ポンプの準備と管理 ⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察 ⑦抗生物質の用法と副作用の観察 ⑧インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察 ⑨麻薬の主作用・副作用の観察 ⑩薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む）